

第4回町田市中心市街地整備計画策定検討委員会 会議録要旨

【会議日時及び場所】

日時 2015年1月16日(金) 10:00~12:00
場所 町田市役所 3-1 会議室

【出席者】 (敬称略)

■委員

真野洋介、西田司、大熊省三、清水哲夫、田中伸和、三輪律江、柳沢厚、岩崎俊男、大塚信彰、米増久樹、中村英和(山口拓 代理)、上田敬生

■事務局

都市整備担当部長、地区街づくり課、交通事業推進課、企画政策課、未来づくり研究所、文化振興課、産業観光課、建物住宅対策課、道路補修課、都市政策課、建物住宅対策課、公園緑地課、UR都市機構

■関係者 4名

■傍聴者 1名

【資料】

資料1 第3回検討委員会意見のまとめ
資料2 検討のスケジュールとフロー
資料3-1 町田駅周辺 歩行者通行量
資料3-2 町田駅周辺 駐輪場マップ
資料3-3 町田駅周辺 駐車場マップ
資料3-4 町田駅周辺 歩行者空間図
資料3-5 交通ターミナルの現況
資料3-6 回遊・交通環境の対応整備方針
資料3-7 歩行者回遊環境 対応整備方針図

【議事要旨】

- ・ 回遊・交通環境について、現状課題と今後の整備方針について事務局から説明を行い、今後の在り方等について各委員が提言を行った。

【会議内容】

1 開会挨拶

町田市都市整備担当部長から挨拶

2 議事

- (1) 第3回検討委員会意見の振り返り
- (2) 検討の進め方
- (3) 回遊・交通環境について
 - ①回遊・交通環境のテーマ
 - ②歩行者回遊環境
 - ③交通ターミナル(鉄道、バス、タクシー等)
 - ④回遊・交通環境の取り組みの進め方
- (4) 新たな賑わいづくり検討部会の報告

- (1) (2) について、委員長から説明
- (3) について、地区街づくり課から説明
- (4) について、副委員長から説明

3 その他

次回以降の検討委員会日程について

■ 意見等

(委員)

- ・鉄道分断の解消や溜まり空間づくり、駐輪場・駐車場・バリアフリー・住宅など、資料に基本的な問題意識は入っていた印象を持った。
- ・本委員会はまちづくりが主役で、交通はそれをサポートする立場であるため、まちづくりの議論が進んでいない中で、交通検討の具体的な話は少し様子見の所もある。まちづくりの方針が決まってくると、交通も具体的にどうするか見えてくるだろう。
- ・自転車の取扱いについて、商店街での手押しという話が出たが、経験上一度そのようなルールを作っても、ほとんどが有名無実化するため、商店街の自転車走行はある程度許可してよいと思っている。自転車での来街者も多いようなので、空間づくりで上手く対応する方が得策ではないか。例えば商店街の入口に少し障害を設けるなど、技術的な対応も考えるべき。
- ・デッキと商店街の結合性について、個別にはそれなりの周遊はあるが、相互に接合するのは意外と難しい。行政はエレベーターなどのハード整備検討が興味を中心であるが、時間もかかることであり、ソフト面も同時に検討する仕掛けも重要だろう。
- ・駐車場整備はおそらくCエリアが中心になると思うが、同じCエリアの中でも色合いが様々である。特にBエリアの北東部は商店街の駐車場機能を持つため、Bエリアに近いところがないと、車で来る来街者の魅力向上につながらない。状況に応じて部分的な整備や縮小も考えていく必要があるだろう。
- ・大型店舗の動向もある程度見込んでおかないと交通の検討として片手落ちになる。情報共有や先を見越した検討も重要。
- ・バスターミナル整備についても、一部ルートについては商店街の近くを通すなど、バスの路線網の改良も併せて必要ではないか。バスターミナル整備を行っても、ターミナルと郊外の接続機能強化のみで、やはり中心市街地を歩かないことになりかねず、ハードとソフト両面から考える必要がある。
- ・原町田大通りはBゾーン活性化における最大のネックと見られ、その使い方をどうするかが非常に重要である。例えば幾つかの動線を定義し、これらを積極的に回遊させようという話になった場合、比較的遠隔地の芹ヶ谷公園などもあり、回遊の交通網は必ずしも徒歩だけではない。小型バスなどを入れる意向があるかどうかも含めて真剣に考えなければならない。
- ・交通を検討するフレームをどうするか、色々なステークホルダーが入って議論する場を作らなければならない。特にルールづくりを行う際には非常に重要であり、バリアフリーなどどう連携していくかも大事である。

(委員長)

- ・まちづくりがあってこそその交通という話があったが、あえて交通を変えることを目標にまちづくりを行うとした場合、どこから手を付けたらよいかという視点で見ると面白い。次回の拠点整備の委員会においても、誘導からやるとどのようにまちを変えられるのかという点から見ていってもよい。
- ・駅や大型店のビル建替えは、時間がかかりすぐにはできない。そこまで含めて話をするのか、現状の寸法は変わらず、ソフト面やちょっとした協議で変えられるようなことからやるか両方の考え方がある。原町田大通りの議論で、賑わい空間になる可能性があるが、将来のモノレールの繋がりまで踏まえて議論するのか、今あるところで賑わいに寄与するやり方を考えるのか、どのように考えていくかが一番気になっている所である。
- ・商店街は既に歩行中心の空間になっているところがあるが、そこに溜まり空間を作るべきかどうか意見を頂きたい。

(委員)

- ・実際歩いてみて町田は滞留空間がなく、デッキからまちへつながるところができていない。神戸の元町では商店街の道の真ん中にいすが置いてあったり、休憩室、カフェがある。また、革細工の職人が集まる街にもなりつつあり、今の町田にはない光景がある。

- ・約 30 年前まで、まちづくりはハードから入っていき、ことごとく失敗している。コンパクトシティと呼ばれる富山や青森も多額の税金をつぎ込んでいるが、なかなかうまくいっていない。ハード主導のまちづくりはそこに生きる人との生活と中々密着しないものである。したがって、コンセプトをしっかりと決めどう活かしていくか、ハードとソフトの両輪で進めていくことが重要である。茅ヶ崎では商店街で自転車を作り、軒先に駐輪場をつくるなど商店主も協力をしながら環境にやさしいまちづくりを展開している。
- ・色々な観点がある中で、どういうまちにしたいかネーミングから入り、しっかり議論して決めていく必要がある。

(委員)

- ・A・Bエリアはできるならば車を排斥した方が良く、道の構造や建物の入口など工夫を行うことで滞留空間など新しいものができていくだろう。滞留部分と人が動く部分などの動きを、一つの同じ幅の道でも2つに分け、真ん中に休憩する場所を設けるなど、もう少し丁寧に見ていけばやれるのではないかと思う。
- ・横浜の元町商店街では、ハード面は、歩行者天国を実現し車を迂回させる形でスピードダウンさせる空間づくりによって成功しているが、ソフト面では地元のルール作りが非常に画期的なものである。授乳スペースを確保するのに特別な車両を借り入れ、それがまちの道路に置いてある。普通商店街には授乳やおむつ替えのスペースがなく、どこかのビルに入らなければならないが、そのような取り組みにより子育て世代が街に来て循環している。また、建物の足元にはデザイン統一された犬の飲み水を供給する場所がある。荷捌きでは、共同の配送システムを作っている。元町商店街は散らばっており、うまくタイアップしないと、歩行者空間に滞留空間を生み出すなど、人が集まる時にはハード面のみでは対応が難しい。ソフト面においてうまくチャンネルがあっているが、町田でもハードとソフトの仕掛けを同時進行することで、周辺に住む子育て世代などの受け皿となれるのではないか。
- ・資料3-7を見ると、中心部から放射線状に出ている動線はあるが、フリンジ側の回遊性がない。例えば芹ヶ谷公園から市役所に向かう際、これでは街の中心部に一度戻ってから向かうということになり、目が向けられていない道についても包括的に組み込んでいく必要がある。現状人がいるところ、かつて人がいたところに目が向けられているが、今後歩いてもらわなければならない道も創出していかなければならない。市の子どもセンターも同様である。当時の子どもセンターの検討では、電車が見える道は、小さな子供には非常に魅力的で、線路の囲いがもっと楽しいものであれば、より面白い誘導ができるという意見もあり、新しい施設をつくることと外側の回遊性を考えた道の考え方が欠けている。
- ・駐輪場は、これらを具現化するとなると今よりも必要である。デンマークでは、表の道は道としてとても優しいが、裏は駐輪で集積されており、表と裏の顔が存在している。その組み込みについては相当議論が必要だが、現状の駐輪場配置では確実に足りず、母親たちは自転車で動くため、駐輪場を意識的に点在させることを考えなければならない。

(委員長)

- ・芹ヶ谷公園の委員会において、中心市街地と芹ヶ谷公園を結ぶ動線について議論が出ている。子どもセンターやシバヒロなど周辺部に文化や交流の場があるので、そこも考えておかなければならない。

(委員)

- ・A・Bエリアにおける車両の規制は望ましいが、特に大型店の荷捌きは容易でなく、荒天時や時間が集中できない荷捌きも大変なので、どこまで本気でやるかは考えないといけない。
- ・軸整備について、ストーリー性がある通りであれば、ちょっとした距離なら歩けるものである。例えば町田駅から市役所までは、天気の良い日に歩けば楽しいものだが、何か気分よく歩けるテーマがあればと思う。
- ・資料3-1の歩行者交通量において、仲見世商店街は10%以上通行量が増えている。やは

り人は賑わいのあるところを通るものであって、無機質で人が通れば良いという時代のデッキは全く楽しくない。西新宿の地下道はほとんどがその状態である。

- ・町田はバリアフリー動線が煩雑とのことだったが、見えないものを探す努力は余りしないので、視認性の問題が大きいのではないか。利用者に優しいターミナルということから「サイン計画」というのがあったが、個人的にはサイン計画反対派であり、本来は、そこにいてどこを向いているのか分かる「場所性」が利用者にとって一番やさしいのではないか。

(委員)

- ・町田の商業の回遊性が十分でない理由として、奥行きや厚みがなく横丁や路地がすぐ止まってしまうことが挙げられる。変化や探検をする楽しみの要素が町田にはあまり見られない。自由が丘は網目のように空間が広がっており魅力が高い。そこには必ずしも商業施設が連担している必要はなく、それなりにちょっとしたものがあり、行った先にまた何かあるという程度で十分である。路地が何となく繋がり、その先に何かあるという構造に近づけるにはどうすれば良いか、難しいが考える必要がある。
- ・中心市街地から芹ヶ谷公園へ行くのに2本の太い通りがあり、通りを魅力的にすることは必要だが、その間の細い通路を歩きたい環境にするにはどうすればよいか考えたらどうか。
- ・また、JRの駅を降りたときのまちの印象がよくない。真下に真っ暗な交通広場がざっとあるが、最初に降りたときにその印象が強烈であり、JRに並行した道路は、もう少し人の空間に近づけることができないのかと思う。

(副委員長)

- ・都市空間とは、歩いていると両側から風景が生まれるとよく言われる。街の風景として、そこを何か歩いていることを、どれだけ歩いている人以外の人が楽しんでいるのかが大事である。
- ・デンマークでは、街の中心部を「ストロイエ」という名で歩行者空間をつくり30年ずっと行っている。街を歩いていると子供連れの母親と小中学生、お年寄りにたくさん会えるのがコンセプトで、車ではなく、歩行しながらいられる場所を探している。公園やベンチがありながら、そこに人が集まる空間が少しずつ生まれており、車があまりいない先進事例として取り上げられている。
- ・町田を見ると、絹の道中央通りとJRのデッキまでの空間を、一体的に歩行空間として時間的に使えるようになっており、日本で町田はカーフリーが実現している先進都市である。これは、街を紹介する時の代名詞にもなると思う。歩行空間として歩くだけでなく、オープンカフェやストリートカルチャーのある光景があるとよい。自転車を停めて、その風景として停まっている自転車が美しいものであったり、子供が街でスケートボードをやっている姿など、道からカルチャーが生まれるものである。

新たな賑わいづくり検討部会では、原町田大通りの駅前通りから中央通りの間を一時的に歩行者空間にしたらどうかという話がある。今まで何となくあった場所でイベントが起こっていると、その風景自体が町田の顔となるので、これまで町田で歩行空間を作ってきた歴史を、良い意味でバージョンアップさせていくと、とてもよいまちの計画になると思う。

(委員)

- ・地元の町会などで子どもからお年寄りまで休むところが欲しいという意見が沢山出ている。文学館では椅子ではないところで休んでいる方もいる。歩行者優先にして道の真ん中で休息したりお茶が飲めると良いという声は地元からも声が出ている。
- ・駐車場で言うと、家が空くとすぐ駐車場になってしまい危険であるという声が多い。中心部の外側に大きな駐車場を作り、そこから中心部へバスなどで向かうなどの形ができて良いのではないか。現状はマンションになるか駐車場になるかであり、何とかならないかと思っている。
- ・町田街道は交通量が多く事故も多い。原町田橋前の通りが町田街道でストップしているが、あの辺りも将来的なことを考えておかないとまちづくりもどうなるか気がかりである。
- ・芹ヶ谷公園や版画美術館、今後できる国際工芸美術館など人を呼ぶ施設に対して、小型バス

などで町田中を動けるものも必要ではないか。また、市は文学館通りを文化ゾーンと言っているが、文化ゾーン自体どうするかを含めて考えていくべきである。

(委員)

- ・ 駐車場・バリアフリーが非常に進んでいたというのは、かつて町田は駐車場整備を民間でやっていたからである。授乳施設についても、それぞれのお店がお客様にトイレを貸せるよう綺麗にしたかどうかということもやっていた。
- ・ 芹ヶ谷公園に向かう道は、かつて青年経営者研究会で版画回廊構想を示したことがある。現在のまちづくり公社を通して裏に行き、その細い道を通りながら向かうということだったが、町田街道をどう渡るかなどで議論になり、最終的には実現しなかった。
- ・ それとJR原町田駅移転が終わると、当時の中心市街地のマスタープランもほぼ完成し、行政も余り積極性がなくなり、地元も疲弊していった。ただ授乳室の話は、地元でできない話ではないので、そういったものを町田市中心市街地活性化協議会でやっていこうとしている。
- ・ 原町田大通りは、当初中央分離帯がついていたが、それを外す運動を商店街で行い、結果として外してもらった。当時は警察も強固であったが、今は法律が変わっていることもあり、週末は歩行者天国にする話をぜひ進めてもらいたい。モノレールが入ってくるというが、モノレールは空中であり、その下が仮に途中まで車道ではなくとも、そんなに問題ないと思う。そのような形の方が寧ろモノレールとしても使いやすい。
- ・ 中心市街地を何とかしようと、市がやっとここで立ち上がってくれたことに感激している。ぜひさらに進めてもらいたい。
- ・ 相模原側の玄関口として南口の整備をお願いしたい。

(委員)

- ・ どのような検討をするか、組織やフレーム作りが地元と行政の間で必要である。
- ・ 環境整備が非常に大事であり、整備によって入ってくる商業者も変わってくるはずである。原町田大通りには、原宿やもう少し都心的なお店が出てくることを想定していたが、そうはなっていない。かつて町田は再開発によって発展してきたが、今は買い物やサービスの利便性が求められ、状況が変わっている。再開発を行った後に、そこの怠った部分が今の状況に繋がっているのだと思う。吉祥寺などを見ても奥行きがあり歩いて楽しいまちになっていることから、町田も芹ヶ谷公園などの市の施設と中心部にどういう繋がりを作っていくか考えないといけない。各行政施設も、施設として何か楽しみがあるというところを仕掛けていく必要があるのではないか。

(委員)

- ・ JR町田駅の自動改札のデータを確認したところ、日時時間帯問わず駅利用者の90%以上が中央改札を利用し、ターミナル改札の利用者は10%未満であった。ターミナル口は改札まで200メートル歩く必要があり、バリアフリーもされていない。ハード面でやることは中々難しいが、街の回遊性を考えると早く街に出てもらい、まちを歩いてもらったほうが良い。
- ・ 原町田1丁目の相模原市側からのアクセスを強化する歩行者動線という点で、かつて原町田駅が移転した経緯もあり、市と連携してやっていく部分があるかと思っている。

(委員)

- ・ サイン整備について、駅に降りた時にどこにいるか分かる形にし、サイン整備によらない形が理想である。既に一部サイン整備がされているとのことであり、事業者が各々で整備するより、一連のサイン整備があったほうが分かりやすいので、ぜひお願いしたい。
- ・ 小田急の駅舎の南北動線が確保されると、街の回遊性が出てきて良いと思っているが、時下の計画で小田急の駅舎を取り壊して駅舎を整備するという中長期計画がなく、そこまで踏まえて話をするのか、短期的に何か新しいものを作ってやるのか、イメージを伺いたい。
- ・ 交通ターミナルの配置が重要と思っているが、どの位置に配置するかはよく議論が必要。今後どこに配置するのかをこの委員会で提示するのか。それともターミナルがあると良い程度

にするのか方向性を知りたい。

- ・他の委員会で、かつてモディの前に噴水があり、そこに溜まり空間を整備すればよいという話があったが、市が開催する他の委員会と整合をとっているのか。

(事務局)

- ・鉄道で分断されている動線について、J R・小田急とも駅舎の改良の際に、併せて検討していきたい。
- ・ターミナルは、Aエリアに整備していきたいと考えている。可能であれば具体的な位置も示していきたい。
- ・別の委員会があることは認識しており、連携を図りながら本計画にも取り入れていきたい。

(委員)

- ・計画には、事業が長期に及ぶものや事業者の計画に入っていないものもあり、短期でできることと長期で考えていくことの両方が入っていないといけない。時間軸と、ハードとソフトで何をすべきか整合が取れる形で整理することが求められる。
- ・交通の観点では、ポジティブな提案と負荷を制御するという両面を含めなければならない。例えば駐車場整備では、商店街にとっては良いが住民にとっては良くないことがある。アイデアだけでなく実現性を考慮しながら、全体としてバランスを取るにはどうすれば良いか考えていきたい。

(委員)

- ・町田はサッカーやバスケットボールなどスポーツが盛んなので、スポーツによる街づくりも面白い。アーティストなど感度の高い人が集まってくる場でもあるので、そういった街づくりも面白いだろう。

(委員)

- ・若者が関わりながら進めた方が、将来的にしっかりとした街の色になっていくのではないかな。

3 その他

- ・次回以降の委員会日程について

■ 第5回町田市中心市街地整備計画策定委員会

2015年2月17日(火) 10:00~12:00 (町田市役所 3-1 会議室)

■ 第6回町田市中心市街地整備計画策定委員会

2015年5月12日(火) 16:30~18:30 (町田市役所 3-1 会議室)

以上